Ⅰ　「錦城山プロジェクト」への道のり

（１）経過

・２３年

８月２０日　「いしかわの里山づくりＩＳＯ」認証書
県産業展示館にて交付式（知事より）

９月２７日　「里山里海スーパースクール」認定書

９月２９日　北国新聞朝刊に里山里海スーパースクールの記事
古場田良次さん、この記事を見てクレームに来校（教頭）
夜、古場田（植物研究家）さんに錦城山の植生の講師を頼む

１０月　６日　錦城山の希少植物（キンランの保護策設置）（北国新聞、中日新聞）　講師：古場田良次、教員５名、生徒６名参加

１０月１９日　職員会議にて、「里山里海スーパースクール」としての取り組みを話す。内容：①何故、応募したのか　②誰が担当するのか
③何をするのか　→　錦城山の保全・整備、鷺の観察

１０月２０日　錦城山の希少植物（ギンランの保護策設置と植物観察）
講師：古場田良次、教員３名、生徒３名参加

１１月　８日　錦城山の希少植物（クロヤツシロランの観察）

１１月１０日　錦城山の発掘調査（始めての本格的な調査）始まる。本丸跡。

１１月１６日　職員会議にて、「錦城山プロジェクト」を発表する。
２４年度の活動とする。その理由を話す。

１１月２４日　古場田良次さんに「錦城山プロジェクト」の植生Ｇのアドバイザーを依頼

１１月２５日　［錦城山植生の話し］（１年）講師：古場田良次

１１月２８日　［錦城山植生の話し］（２年）講師：古場田良次

１２月１３日　錦城山の希少植物（カラタチバナ保護策設置と植物の観察）

１２月２０日　職員会議にて、「錦城山プロジェクト」の具体的な内容を話す。

１２月２０日　［錦城山の歴史①］　講師：伊林永幸（歴史研究家）

１２月２０日　伊林永幸さんに「錦城山プロジェクト」の歴史Ｇのアドバイザーを依頼

・２４年

１月１０日　全校集会で「錦城山プロジェクト」を始めることを話す。
４グループ分け、勉強会、２４年度本格実施

１月１３日　加賀市文化課課長：田嶋正和さんに「錦城山プロジェクト」の文化Ｇのアドバイザーを依頼

１月１６日　鴨池自然観察館レンジャーに「錦城山プロジェクト」の鷺Ｇのアドバイザーを依頼

１月２５日　［錦城山の歴史②］　講師：伊林永幸（歴史研究家）

２月１６日　［錦城山を学ぶ①］　講師：田嶋正和（加賀市文化課課長）

４グループの希望調査を実施

２月２３日　２４年度学校経営計画・重点目標として、「錦城山プロジェクト」の実践を話す。

３月　７日　「錦城山プロジェクト」発足式、各グループの第１回打合

３月１９日　［錦城山を学ぶ②］　講師：田嶋正和

３月２１日　［錦城山の鷺］　講師：桜井佳明（鴨池自然観察館レンジャー）

随時　植生と鷺は季節毎の観察が重要なので、適時に活動する。

（２）職員会議より抜粋

・第７回職員会議（２３年８月３１日）

①「いしかわ版里山づくりＩＳＯ」の認定をうけた。（８月２０日）

・錦城山の整備・保全や学習、定点観察（写真、目視）など

・第９回職員会議（１０月１９日）

①「里山里海スーパースクール」

Ａ．何故、応募したのか。

Ｂ．誰が担当するのか。：西谷教諭、松登教諭、鈴村教頭、（校長）ほか

Ｃ．何をするのか。：錦城山の保全・整備、白鷺等の観察

・第１０回職員会議（１１月１６日）

学校の取り組みから

①「錦城山プロジェクトチーム」の結成

・１年間の重要な取り組みとしたい。

→　「里山里海ハイスクール」の発表に繋げる。

・全教員が関わる。組織作りを早急に行う。

・生徒の登録：就労していない生徒を引き込む。

②聖城ボランティア活動

・全生徒が部員。就労していない生徒を積極的に引き込む。

③何故、このような取り組みを行うのか

・多様な生徒への支援としての試み

・共感、自己有用感、自立的な力をはぐくむ方法として

・第１１回職員会議（１２月２０日）

錦城山プロジェクト

①教員の役割　→　４グループの顧問

②生徒の活動　→　４グループのどこかに必ず所属（組織化）

③里山スーパスクール

・錦城山の植生と歴史の学習する。

・錦城山の変化を記録する。（写真、ビデオ等）

・植物希少種の保全活動をする。（保護柵の設置等）

・白鷺を観察し記録する。

④地域への発信（ＨＰ、公開講演会等）

⑤情報の収集

⑥その他（総合的な学習、科目のシラバスに入れる等）

・第１３回職員会議（１月１７日）

来年度の重点目標について

①「錦城山プロジェクト」を活用した教育に取り組む。

②地域を活用することで、充実した学校生活を送る。

③地域を活用したキャリア教育を行う。

・第１２回職員会議（２月２３日）

錦城山プロジェクトについて

①完全スタートしました。

②中身のある取り組みにしていただきたい。

③[redacted]の活動、[redacted]の活動、[redacted]の活動、[redacted]活動・・・

④まず、先生方が楽しく取り組むことです。先生方の力に期待します。

⑤いろんな機関や人達の協力・応援を期待しましょう。

・第１４回職員会議（３月２２日）

来年度の重点目標について（案）

錦城山プロジェクトを実践することにより、

①夢や目標を持って学習する。

②ルールやマナーの大切さを感じ、充実した学校生活を送る。

③地域を活用したキャリア教育により、進路実現を目指す。

・第１回職員会議（２４年４月２日）

今年度の方針について

①キーワードは、「錦城山プロジェクト」

②キャッチフレーズは、「想像して、挑戦する（夜学の挑戦２）」

・第２回職員会議（４月７日）

平成２４年度の学校経営計画（別紙参照）

①『錦城山プロジェクト』を柱とします。

・第３回職員会議（４月２５日）

錦城山プロジェクト

①魅力ある県立学校づくり推進事業企画書（別紙）

②「総合的な学習の時間」での取り組みを計画する。

③「部活動」として昼時間での取り組みにもチャレンジください。

④取り組んだことは必ず記録（メモ、写真、録音）してください。

→　後日の報告や研究会資料のため

⑤各教科科目の中で取り入れてください。　→　要請訪問

・第４回職員会議（５月１８日）

④錦城山プロジェクト

各グループの計画はできていますか。

・第５回職員会議（６月１９日）

（１）錦城山プロジェクト

①多くの人が注目しています。→しっかりと計画・実践して下さい。

②各教科の取組をお願いします。→計画を報告。7月に研究授業ありますか。

③各グループの取組を報告して下さい。

④アクションがあれば、必ずリアクションがある。それが繋がりのきっかけとなる。　→　必ずプラスに繋げる。

⑤各グループの「活動報告」をホームページでアップしてください。

・第６回職員会議（７月１１日）

⑤「錦城山プロジェクト」

・大聖寺の町を探索ください。

・９月以降の活動の準備をしてください。

・錦城山を取入れた研究授業の準備をしてください。

・第７回職員会議（８月３１日）

（２）錦城山プロジェクト

①９月２７日（木）各グループでの発表会準備

②錦城山プロジェクトの後半　→　地域の人への聞き取り（話を聞く）※

③生徒への的確な指示　→　具体的に指導

④希望する講演者（５名くらいなら予算あり）

⑤授業への取り入れ

・第８回職員会議（９月１９日）

「錦城山プロジェクト」

①夜でも、雨でもできること

地域の活用

②アンケート調査

→　調査項目づくり　→　地域へ出かける　→　まとめる

③地域の人のお話を聞く

Ⅱ　錦城山プロジェクトの目的

①学校の活性化・・・生徒の自尊感情、自己有用感の育成

②教員の学校経営への参加意識の高揚・・・聖城高校への誇りと使命

③地域へのアピール・・・「地域とともに」、地域のテーマにしたい

Ⅲ　錦城山プロジェクトの発足

（１）契機（２３年８月）

きっかけは、石川県の「いしかわ里山づくりＩＳＯ」への応募であった。

このときには、まだはっきりとした目的はなかった。前年度から本校が行ってきた環境教育やボランティア教育の一環としての位置づけであった。
錦城山の遊歩道の清掃・整備やサギコロニーの定点観察を考えていた。

（２）第１段階（２３年９月）

９月の「里山里海スーパースクール」の認定で２０万の予算が付いたことで、単にお茶を濁すような活動にできないことになった。（外部要因）
目的や活動方針等の計画が必要となった。予算は２３年度執行であった。
そこで、次年度の総合的な学習の時間の内容にできないか考える。

（３）第２段階（２３年１０月～１２月）

・本校の近くに住む古場田良次（植物研究家）さんに錦城山の植生について相談する。１０月に古場田さんの指導による錦城山の希少植物の保護策設置の活動を行う。古場田さんと錦城山を巡ったり、お話を聞いたりする内に、「植生」が有力な取り組みになると考える。
・サギコロニーに関しては、錦城山の鷺は３月頃に来て７月の終わり頃に東南アジアへ飛来していくとのことで、この期間には鷺はいなかった。鷺についての学習と観察を考えた。近くの鴨池自然観察館のレンジャーに期待した。
・錦城山の植生が自然林という形で残っているのは、大聖寺藩が錦城山を２５０年間にわたってお止め山、すなわち入山禁止としたことによることを知る。このことから、錦城山の歴史を学ぶことが価値あることだと気付く。おりしも、１１月から国の予算化による大聖寺城址（錦城山）の発掘調査が始まった。
・１１月中頃、おぼろげながら「錦城山プロジェクト」の概要が見えてきた。
・生徒数がおよそ６０人だから、１グループ１５名程度で４グループ、教員数が８名だから、各グループ２名の配置を考えた。
・４グループにするには、植生、鷺、歴史ともう一つグループが必要である。
・１２月に最後のグループを文化とすることにした。文化グループでは錦城山の麓に発展してきた大聖寺町の芸術・文化・町をテーマとすることにした。

（４）第３段階（２４年１月～３月）

平成２４年１月１０日の全校集会の時に生徒・教職員に「錦城山プロジェクト」の実施を話す。教員には、もう後戻りできないことをアピールした。
２月中旬にグループ分けの希望調査をし、意識付けを行う。さらに、３月の終わりにも講演会を実施する。４月当初から、全員（生徒、教員）でのスタート態勢を作る。

（５）本格実施（２４年４月～現在）

２４年度４月から新１年次生を加えての本格実施となった。昨年度に２・３・４年次生のグループ分けを行っていたこと、前年度中にプレ錦城山プロジェクトとして、各グループに関する講演会の実施による意識化があったので、スムーズなスタートとなった。

（６）現在（成果と課題）

① 成果

・すべての学校運営・学校行事を「錦城山プロジェクト」に掛けることにより、物事がわかりやすく展開できた。

・石川県の魅力ある学校づくり推進事業などへの企画がスムーズに行えた。

・地域との関係を築くことがスムーズにできた。

・ＨＰへのアップロードにより、アクセス数が増えた。

・本校のアピールに利用できた。

② 課題

・昼の活動がほとんどできない。

・総合的な学習の時間だけでは十分な活動ができない。

・この活動のための資金が十分に確保できない。

・教員のモチベーションが低い。やはり、やらされ感があるのだろう。魅力或内容となっていない。

・活動が１週間あるいは２週間に１度だから、生徒のモチベーションも低くなる。

③ 課題の克服

・１年間では、何をすればよいか分からない。数年間の継続が結果を出す。

・教員のやる気にかかっている。インセンティブが必要である。
インセンティブとはこの活動から学習の本質を学び取ることである。

・成功事例を積み上げる。

・外部からの評価をうける。

・成果を出して、補助金をもらう。